

教育センターニュース

四日市市教育委員会 教育支援課
〒510-0085 四日市市諏訪町 2-2 (四日市市総合会館6階)
TEL 354-8283 (代) FAX 359-0280

ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>



教育支援課マスコットキャラクター しえん君

「社会人になっても通用する問題解決能力」の養成を図る カリキュラム・マネジメントを！



この1年間で、どのくらい「問題解決能力」を養成できましたか？

梅の香りが爽やかに漂う季節となりました。いかがお過ごしでしょうか。学校では、学年末のまとめや新年度の準備に追われ、目が回るような毎日を送られている方も多いのではないのでしょうか。

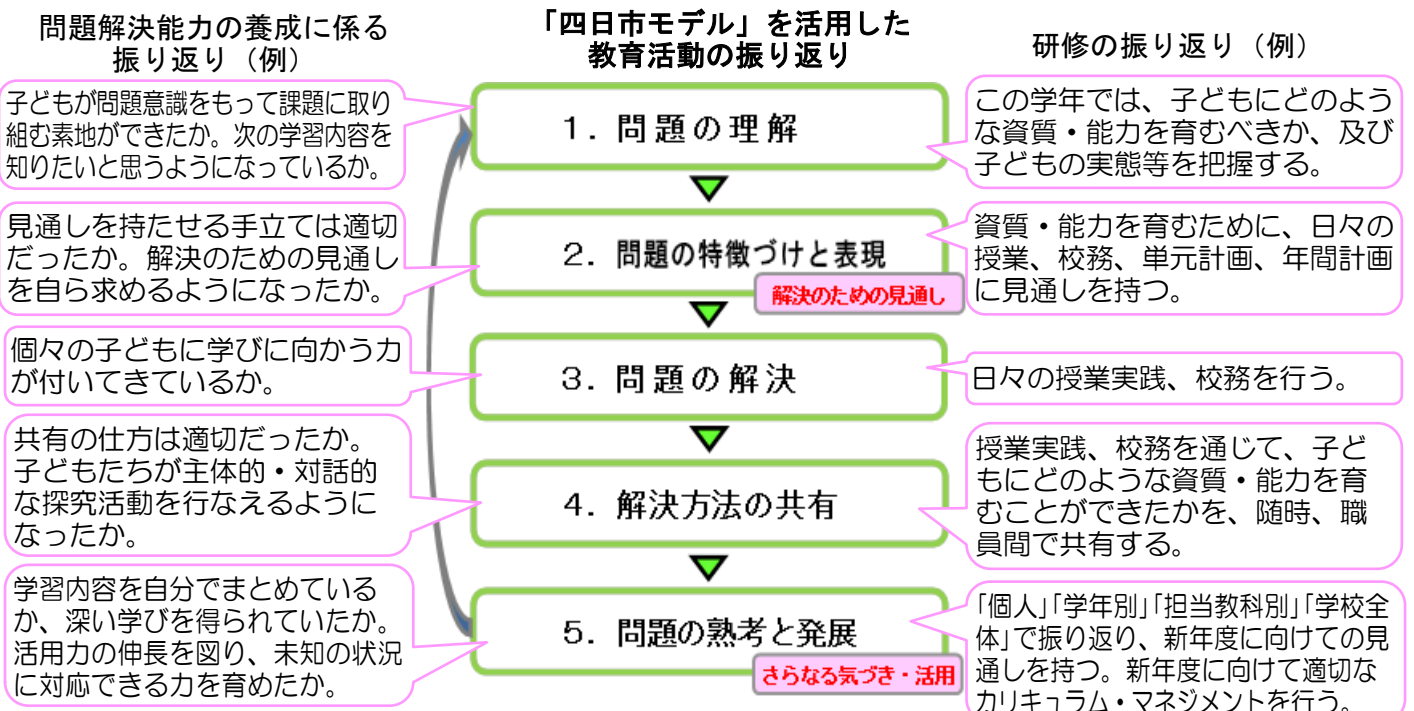
今回は、そんなご多用な毎日であっても、年度の変わり目に際して、立ち止まって考えて頂きたい内容を特集しています。

さて、皆さんがご存知の通り、本市では、「社会人になっても通用する問題解決能力の養成」を図ることを重要な施策として掲げています。

これは、予測困難な未来社会を生き抜く力を、日々の授業を通じて、子どもたちに育てるためのものです。今年度1年間の取組を振り返ったとき、子どもたちにどのくらい「問題解決能力」を育てることができたのでしょうか。

教員として「個人」での振り返りはもちろん大切ですが、「学年別」「担当教科別」「学校全体」で振り返り、新年度に向けての準備ができるとうよいですね。

このとき、「四日市モデル」(問題解決能力向上のための5つのプロセス)を意識して振り返ることも一つの有効な方法です。



「学校教育目標」と「自分の分掌」との関係性を把握して仕事を進める

間もなく新年度が始まります。新年度が始まって校務分掌表を見たとき、まず初めに「自分の担当が何か」に目がいきます。

社会人になっても通用する
問題解決能力の養成の実現

「今年度の校務分掌は、〇〇と□□が主な担当か。よし、わかった！」

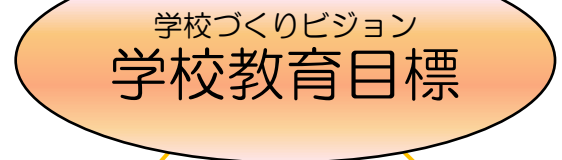


そこで終わってしまうことはないでしょうか。しかし、重要なのはここからです。学校教育目標を達成するために、

「自分の校務分掌は、学校教育目標とどのような位置関係にあるのか」

「目標達成のために、必要不可欠で意味のあるものにするために、職員間で対話をしているのか」

「目標達成のために、効果的な校内体制が取れているのか」等々・・・



大切なことは、「この校務分掌は、子どもたちに『社会人になっても通用する問題解決能力』を育むために効果的な仕事になっているか」「学校教育目標を達成するためには、この校務分掌をどのように取り組むと効果的か」などの視点で捉え直すことです。

教科等横断的な視点で構成しているか

改善力がある PDCA を確立しているか

人的、物的資源を効果的に組み合わせているか



日々の授業・校務



カリキュラム・マネジメントの3つの視点

上述した内容について、「新学習指導要領（総則）」では、「カリキュラム・マネジメント」として、以下のように示されています。

第1 小（中）学校教育の基本と教育課程の役割

4 各学校においては、児童（生徒）や学校、地域の**実態を適切に把握し**、

①教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を**教科等横断的な視点**で組み立てていくこと、

②教育課程の**実施状況を評価してその改善**を図っていくこと、

③教育課程の実施に必要な**人的又は物的な体制を確保**するとともにその改善を図っていくこと

などを通して、教育課程に基づき**組織的かつ計画的**に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。

（①②③及び下線・太字はセナ-ニュース作成者が追記）

新学習指導要領に示された内容は、従前から私たちが取り組んできたことです。

まずは、子どもの姿から出発し（**実態を適切に把握し**）、①目指すべき子どもの姿・目標の実現に向け全教育活動を通じて（**教科等横断的な視点で**）取組を進めます。そして、②常によりよいものを目指すためにPDCAを確立する（**実施状況を評価してその改善を図る**）ことや、③目標を実現するために必要な人的・物的資源を効果的に組み合わせる（**人的又は物的な体制を確保する**）ことが大切です。



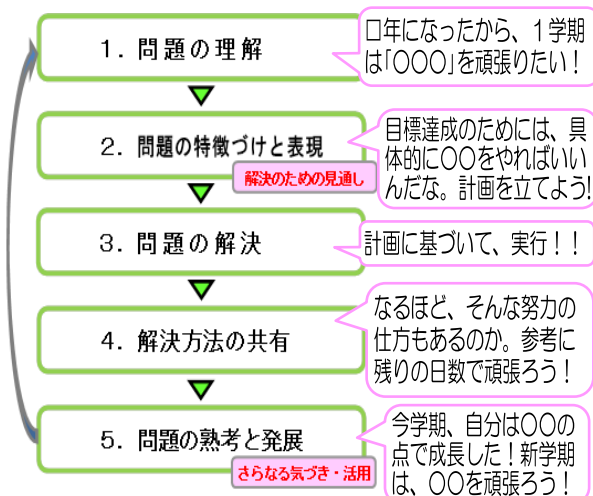
各学校において、**組織的かつ計画的に**教育活動の質の向上を図っていくためには、全教職員がよく話し合い、「学校づくりビジョン」や「具体的な手立て」を共有することが求められます。新年度を迎えるにあたり、今一度、全教職員でビジョンの共有を図るとともに、日々の授業や校務を通じて、子どもたちに「**社会人になっても通用する問題解決能力**」を育むための教育活動につなげて頂ければ幸いです。

問題解決能力を育むため、子ども自身にカリキュラム・マネジメントを意識させる

新学期が始まると、子どもに「〇学期の目標」を書かせることがあります。が、「書かせたまま」になっていることはないでしょうか。目標達成のための計画立案、管理、振り返りなどの手法を身に付けさせ、PDCAを意識させることが、問題解決能力の伸長につながります。



これらは、日々の授業や行事等（児童会・生徒会活動を含む）においても、子ども自身に意識させて取り組ませることが大切です。



教育支援課 研修・研究グループ

校内研修会のアイデア紹介

「新学習指導要領 総則」の読み合わせ

新学習指導要領の全面実施を前に、新学習指導要領の記載内容を読み解くことが大切になってきます。その中でも、総則は、カリキュラム・マネジメントのチェックリスト（学校の健康診断）として活用できると言われています。

校内で、学校づくりビジョンや教育課程と照らし合わせた読み合わせをお勧めします。



ワークショップ型校内研修会〔展開例〕

- ① 総則の各項目を校務分掌等で分担し、小グループで解説する。その後、全教職員に相互に解説し、共有を図る。
- ② 拡大印刷した学校づくりビジョン等に、所見を書いた付箋（成果:青、課題:黄、改善案:ピンク）を貼り、小グループで協議する。その後、全教職員で共有し今後の方向性を確認する。

「小(中)学校新学習指導要領 総則」の項目

- 第1 小(中)学校教育の基本と教育課程の役割 何ができるようになるのか
- 第2 教育課程の編成 何を学ぶのか
- 第3 教育課程の実施と学習評価 どのように学ぶか、何が身に付いたか
- 第4 児童(生徒)の発達の支援 子どもの発達をどのように支援するか
- 第5 学校運営上の留意事項 実施するためには何が必要か
- 第6 道徳教育に関する配慮事項



この研修会を通じて、学校の強み・弱みを把握し、子どもに「問題解決能力」を育むことができる学校体制の確認ができるとういことです。

研究報告

平成29年度、教育支援課で取り組んできた研究を報告します。それぞれの研究にあたり、御協力いただきました先生方及び学校・園、関係機関に心よりお礼申し上げます。この研究の成果が、今後の学校・園での実践に広く活用されることを願います。

第404集 研修・研究グループ 研修員 謝名堂 正之

小学校音楽科の表現領域「音楽づくり」が活性化する指導に関する研究 — タブレット PC を補助的に活用しながら —

「音楽づくり」を活性化させるために、常時活動（リズム遊び・リコーダーリレー）とタブレット PC の補助的活用を行い、その有効性について検証しました。

教育芸術社の「小学生の音楽 6」の「和音の音で旋律づくり」にて、「和音にふくまれる音を使って4小節の旋律をつくろう」に加え、発展として「和音にふくまれる音を使って小学校生活の思い出ソングをつくろう（8小節）」を設定しました。

常時活動で、リズム遊びにおいて活用できるリズムを増やすとともに、リコーダーリレーにおいて即興的な旋律づくりをしました。これにより、「音楽づくり」への見通しをもたせることができました。

タブレット PC を「和音伴奏再生機」として活用することで、演奏技能に左右されることなく、旋律づくりや歌づくりに専念させることができました。また「リズムづくりの補助機能」としても活用することで、リズムを視覚的に確認し、リズムを工夫しながら音楽づくりをさせることができました。観点の評価変化（「音楽への関心・意欲・態度」「音楽表現の創意工夫」「音楽表現の技能」）では、A 評価の児童の増加がみられました。

【児童の感想】

- 自分たちでついたり、演奏したりして、音楽が楽しくなりました。
- 歌詞とメロディーを組み合わせるときに、最初は苦労したけど、タブレットを使いながら、どんどんできるようになってきて、最後は楽しみながら学ぶことができました。



執筆者からの一言

常時活動により、「音楽づくり」をするうえでの既習事項の習熟を図ることができると実感しました。今後は、6年間を見通した系統性のある常時活動について考えていきます。

児童が行うタブレット PC の操作方法を「再生」「停止」「選択」に限定しました。その結果、何度も再生し、音を確認しながら、「音楽づくり」をすることができました。



第405集 研修・研究グループ 長期研修員 川島 理恵

中学校外国語科における「話すこと[やり取り]」の能力を高める研究 — スキット作りを手がかりに英語での会話を活性化させるために —

「話すこと [やり取り]」の能力を高めるためには、帯活動等を活用した段階的な会話練習を継続することが大切です。その上で、コミュニケーション・アプローチのメソッドと「四日市モデル」を取り入れた授業で、即興での会話を繰り返し行うことが、英語での会話を活性化させ、「話すこと [やり取り]」の能力を高めることに有効であることを検証しました。

段階的な会話練習の継続と即興での会話練習を繰り返し行った結果、会話表現の定着を図ることができ、即興での会話のやり取りに慣れ、「話すこと [やり取り]」の能力を高めることに一定の効果がみられました。また、このことと連動して、英語への興味・関心も高まり、「もっと英語を勉強したい」「英語で話せるようになるために努力したい」という意欲の高まりもみられるようになりました。

「話すこと [やり取り]」の能力を高める手立て

自動化理論	コミュニケーション・アプローチ/四日市モデル
常活動を活用した段階的な会話練習	スキット作りを手がかりにした即興での会話練習
第1段階 繰り返し練習による会話表現の習得 第2段階 一問一答形式によるペアでの会話トレーニング 1 第3段階 ONE-MINUTE CONVERSATION によるペアでの会話トレーニング 2	即興での会話を成立・継続させるための手立て (a) 場面・状況設定/第1プロセス (b) 授業の流れ・CAN-DO リストの提示/第1・2プロセス (c) 会話予測/第2・3プロセス (d) ワークシートの工夫/第2・3・5プロセス (e) 情報の収集・整理/第2・5プロセス



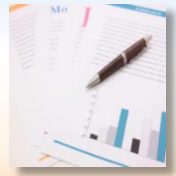
執筆者からの一言

「話すこと [やり取り]」の能力を高めるためには、継続した指導が必要です。しかし、より効果的にその能力を身に付けさせるために、単に話をさせるのではなく、理論に基づいた即興的な会話練習を系統的に取り入れました。回数を重ねるうちに、生徒たちが生き生きと活動するようになってきました。

今後は、小学校との連携を強化し、より効果的な方法を検討していきたいと考えています。



各研究の詳しい内容は、教育支援課までお問い合わせください。また、四日市市立教育センター・視聴覚センターのホームページで、閲覧・ダウンロードをして頂けます。
(下記をご参照ください)



第406集

四日市市適応指導教室

適応指導員 北保 絵美 奥野 由佳里 宮崎 久美

不登校生徒への初期対応と校内体制について
— 欠席3日目シートの活用を通して —

不登校傾向のある生徒への初期対応を早期に行うために、欠席3日目シートを改訂し、組織的な支援を行うことは、不登校生徒を減少させることに効果があるかを検証しました。以下の内容を取り組むことで一定の効果がみられました。

- ①欠席日数の管理……連続欠席3日だけでなく、累積欠席日数にも注意する。
- ②情報の共有……「欠席3日目シート」作成後、学年、担当で早急に回覧し、支援内容の検討を始める。
- ③支援内容の検討……生徒のアセスメントを学年で行い、生徒にどのような支援が必要かについて共有する。また、支援内容をいつ評価し見直すかについて事前に想定しておく。
- ④連携……校内で、誰が支援体制を統括するのか、他機関とどのように連携するのかを事前にマニュアル化しておく。また、それぞれの教員の役割を明確化しておく。

各校が普段行っている支援を、組織的・計画的に見直すことで校内の支援体制が円滑に進むと考えました。

【教職員のアンケートより】

- ・紙ベースの3日目シートが電子化されたことで保存や回覧がしやすくなった。
- ・学年会で話し合うことで、支援の方向性を統一することができた。

執筆者からの一言

「欠席3日目シート」を、どのような目的で作成しているのか、どのように活用するのかといった点を改めて確認しながら、組織的に初期対応の支援を行うことが必要だと感じました。また、適応指導教室からの客観的な意見が、別の見立てや新たな支援方法につながるのではないのでしょうか。



「研究報告」を活用しよう！



上述の「研究報告」の詳細は、四日市市立教育センター・視聴覚センターのホームページ（「文書等ダウンロード」のページ）で、ご覧頂けます。また、今夏の教職員研修講座で研究報告を行います。ご参照頂き、日々の実践にご活用願います！



研究年度	研究番号	タイトル
平成29年度	第406集.pdf	不登校生徒への初期対応と校内体制についての研究
	第405集.pdf	中学校外国語科における「話すこと[やり取り]」の能力を高める研究
	第404集.pdf	小学校音楽科の表現領域「音楽づくり」が活性化し指導に関する研究
平成28年度	第403集.pdf	不登校を未然に防止するための校内支援の研究
	第402集.pdf	中学校数学科における数学的な思考力を高める研究
	第401集.pdf	小学校体育科における「対話的な学び」が活性化し指導に関する研究
平成27年度	第400集.pdf	不登校児童生徒に再登校を促す支援方法についての一考察（2年次）
	第399集.pdf	中学校理科の学習におけるタブレットPCの活用に関する研究
	第398集.pdf	小学校理科における問題解決能力を育成する学習指導法の研究

平成26年度以前の研究調査報告はアーカイブからご覧ください。

平成30年度夏季教職員研修講座に注目！研究報告を行います！

日時・場所	内容
平成30年8月6日(月) 9:30~12:00 (総合会館7階第1研修室)	不登校対策研修会(担当者研修会) 不登校対策の方向性、QI調査の活用
平成30年8月21日(火) 13:30~17:00 (総合会館7階第3研修室)	研究発表・講演「Let's enjoy making music! — 「音楽づくり」を活性化するには!? —」 教諭 謝名堂 正之/聖徳大学音楽学部音楽総合学科 准教授 松井 孝夫
平成30年8月23日(木) 13:30~17:00 (総合会館7階第1研修室)	研究発表・講演「生徒の話すこと[やり取り]の能力を高めるために — Teacher Talk for Students —」 教諭 川島 理恵/静岡大学 学術院教育学領域 教育学部英語教育講座 准教授 百理 陽一

教育支援課 特別支援教育・相談グループ



学校における合理的配慮の充実に向けて — 四日市版インクルDBを作成中! —

特別支援教育・相談グループでは、市内の小中学校における「合理的配慮」の提供事例を収集・蓄積し、「四日市版インクルDB」の作成を進めています。

市内のすべての小中学校の特別支援教育コーディネーターの協力により、現在までに、通常学級43事例、特別支援学級33事例、合わせて76事例の提出がありました。今回は、その中から、2つの事例を紹介します。

これらの事例は、平成30年度以降の特別支援教育コーディネーター担当者研修会において検討を行い、合理的配慮にかかる教職員の理解を深めるとともに、事例集「四日市版インクルDB」として取りまとめ、共有・活用を図ります。

インクルDB

- ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所が作成している「インクルーシブ教育システム構築支援データベース」のことです。
- ・すべての学校種で参考になる合理的配慮の実践事例が掲載されています。

小学校 1年生（特別支援学級）

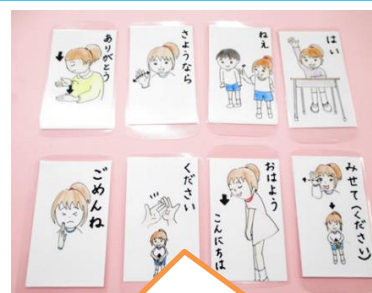
対人関係

生活

困難さの状態 言葉を話すことができず、相手の体や服を引っ張ったり、物を見せに來たりして要求を伝えようとする。

配慮の意図 ジェスチャーでコミュニケーションが図れるように。

配慮の手立て ジェスチャーをいくつか決め、絵カードで表した。



さらに、タブレットを利用することも検討中とのこと。

本人に必要なジェスチャーが厳選されています。

中学校 1年生（通常学級）

教科学習

困難さの状態 文字を読むことはできるが、書き写すことが極端に苦手である。

配慮の意図 授業に集中できるように。振り返り学習に役立てられるように。

配慮の手立て デジカメを利用して授業者が板書を撮影し、データ（SDカード）を持ち帰らせている。



「障害者差別解消法」と合理的配慮について

平成28年4月1日、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）が施行された。この法律で、行政機関等は、障害者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合において、その実施に伴う負担が過重でないときは、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、当該障害者の性別、年齢及び障害の状態に応じて、社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮をしなければならない。

（第7条第2項）

合理的配慮とは

障害のある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子どもに対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要なものであり、学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの。（文部科学省ホームページより）

インクルーシブ教育システム（包容する教育制度）とは、人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みのことです。